

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		運動/遊びのスペースと課題スペースを分けて構造化して対応しています。個室対応や検査室など構えている。
	2	職員の配置数は適切であるか	○		子どもの困り感やニーズに応じて職員配置等について適宜検討しています。リハ専門職種や保育士、心理士などで対応している。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		視覚支援を用いるなど子どもがわかりやすい環境について適宜話し合いを行っている。視覚的にも知らせている。パーテーションなどを用いて刺激の調整や構造化を行なっている。個々のスケジュール管理や困りごとに応じた環境調整を行っている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		掃除や備品等のアルコール消毒を適宜行っている。支援が終わるたびに環境整備をしている。日々の掃除やアルコール消毒などを行っています。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○		定期的にカンファレンスを行い、子どもの困り感やニーズの整理を行っている。適宜、気になった点なども支援員同士で話ができています。カンファレンスをして確認している。カンファレンス等を行い、実施している。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		アンケート結果を職員で情報共有し、課題解決に向けて適宜取り組んでいる。指摘を受けたことに対して、早めの対応を心がけている。保護者の意向を確認しながら可能な範囲で検討している。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		アンケート結果をHPで公開している。HPに公開している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○		スーパーバイズを適宜、受けている。わかりません。スーパーバイズを受けるなど必要に応じて業務改善を図っている。

	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○	年間計画や個人の専門性に応じた研修受講を勧めている。 事業所内研修だけでなく、外部の研修会に参加できる機会も多い。 OJTだけでなく、外部への研修参加、学術活動など支援している。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○	各専門職種が評価・アセスメントを行い、計画立てに活用している。 定期的に面談を実施している。 各種発達検査や専門評価を活用して作成している。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○	各専門職種が標準化されたアセスメントツールを用いて実施している。 定期的な評価を実施している。 様々なアセスメントツールを使っている。 必要に応じてテストバッテリーを行なっている。 発達評価や認知・行動特性の評価を子どもの困りごとに合わせて選択して実施している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○	各領域に応じた対応を適宜検討している。 発達の5領域に沿った支援について検討し、実践している。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○	定期的にカンファレンスを行い、課題や目標の進捗状況を整理している。 適宜、カンファレンス等を行い、協議した上で実施している。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○	各専門職種が必要な課題を挙げて取り組んでいる。 カンファレンスも行き、チームでプログラムについて検討している。 適宜、カンファレンス等を行い、協議した上で実施している。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○	個々のニーズや好子に適宜、把握し支援の中で活用している。各職種ごとに課題も異なっている。支援員が固定化されていない。 子どもの特性に応じて、各専門職が検討し実施している。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成しているか	○	基本的には個別支援を中心に行っているが、必要に応じて小集団でのグループ支援も行っている。 個別での発達支援だけでなく、ご希望に応じて小集団でのグループ支援も行っている。
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○	職員間で役割分担を行い、課題や目標に応じた支援につながるように話を行っている。 活動の目的や内容について議論し実施している。	

	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○	話し合いのタイムラグがある場合もあるが、基本的には毎回確認しながら実施している。 終了後すぐにできない場合もあるが、適宜カンファレンス等で必要な事項について情報共有している。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○	標準化されたカルテを基に記入を行っている。カルテの記載を行っている。 カルテ記載やアセスメントツールを用いて記録している。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○	定期的にカンファレンスを行い、子どもの困り感やニーズについて把握している。 カンファレンスや保護者との面談を通して、検討している。
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○	児童発達支援管理責任者が中心に参加している。また情報提供を作成し、他職種の意見も反映できるようにしている。 児発管や専門職がスケジュールに応じて対応している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○	モニタリングや園見学等を行い、連携している。 日々の療育支援だけでなく、乳幼児健診や市町村の発達相談会に参画する等幅広く活動している。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか		現在、対象児がいない。 必要な子どもさんがいない。 対象児がいない。
24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか		現在、対象児がいない。 必要な子どもさんがいない。 対象児がいない。	
関係機関や保護者と	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○	定期的にカンファレンスを行い、子どもの困り感やニーズについて把握し、支援方法等について情報共有している。担当者だけでなく、保育園での様子を見に行くことも増えている。 担当者会議や情報提供書等を用いて情報共有を図っている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○	就学前カンファレンスや情報提供など行い、スムーズな移行に向けてサポートしている。 担当者会議や情報提供書等を用いて情報共有を図っている。

の 連 携	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○	定期的にスーパーバイズを受けている。 SVを受ける、または各種研修に参加し、知識・技術の向上に努めている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	○	現在、実施していないためニーズに応じて検討したい。 併行通園している子どもも多く、現在はそのような機会を設けていない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○	各種委員会メンバーに参画する等の対応をしている。 スケジュールに応じて参加している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○	療育支援中の話し合いだけでなく、定期的な面談機会を設けるようにしている。 面談機会を設けたり、保護者と困りごとや支援の共通認識が持てるように努めている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○	年間2回のペアレントプログラムを開催している。また日々の療育支援においてもペアレントプログラムに沿った家族支援を行っている。必要に応じて参加を促したり、個別に面談の機会をとっている。行政と共同でペアレントプログラムを行っている。市町村との共催で行うペアプロだけでなく、各職員がペアプロの概念を基に療育支援に携わっている。
保 護	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○	職員間でも運営規定の確認などを行っている。 契約や質問があった際に説明を適宜行っている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○	発達の5領域に沿った計画を作成している。 定期的な面談を行い、療育支援の方針や目標について話し合いをしている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○	面談機会を設けるなど適宜、対応している。 日々の療育支援の中で相談に応じたり、面談機会を設けるなど対応している。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○	同年代の子どもを持つ家族間をつなぐなど必要に応じて対応している。ニーズに応じて保護者会等についても検討したい。活動したいと考えている。 保護者会等はないが、ご希望に応じて保護者間の連携ができるようにサポートしている。

者 へ の 説 明 責 任 等	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	適宜、面談し対応している。 運営会議やミーティングなどを行い、必要事項について話し合いを行っている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○	SNSを活用する等の広報は行っている。Instagramを活用するようにしている。インスタ等にあげているが十分ではない。 Instagramで活動内容を報告したり、掲示板等で情報の発信を行っている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○	同意書の作成/記入など行っている。 同意書等にサインをいただくなど対応している。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	ICT端末の利用や絵カード式コミュニケーション（PECS）なども行っている。必要に応じて視覚支援やICT端末を用いた説明など実施している。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○	直接的な関りはまだないが、社会福祉協議会等と適宜、情報交換は行っている。地域を招待する行事がない。 必要に応じて検討したい。
非 常 時 等 の 対 応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○	年間計画で月1回の避難・防災訓練を行っている。 避難・防災訓練を年間計画で作成し実施している。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○	年間計画で月1回の避難・防災訓練を行っている。 避難・防災訓練を年間計画で作成し実施している。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○	保護者から定期的に情報提供していただいている。 契約時や適時、保護者から情報提供していただいている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○	保護者が医師に確認した上で、情報提供をいただいている。 契約時や適宜、保護者から情報提供していただいている。

45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		月2回のカンファレンスで対応している。ヒヤリハットの内容について、話し合う機会を作っている。各種委員会活動の中で報告するようにしている。
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		各職員が定期的に研修受講をしている。必要な研修について各職種が受講し、知識・技術の向上に努めている。
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○		月2回のカンファレンスで対応し、適宜検討している。委員会等で対象事例やリスクの高い事例などを検討し、情報共有している。